

学びの領域

1年次	2年次	3年次
<p>医療行動科学領域</p> <p>歯科医師としてのプロフェッショナリズムを修得するための知識・技能を、1年次から6年次まで一貫して学びます。授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけでなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していきます。</p>	<p>基礎形態機能学領域</p> <p>「歯の解剖学」*「解剖学」「生理学」など歯科医師になるために必要となる基本的な科目を中心に、生体の構造や機能について幅広い医学知識を修得します。 *「歯の解剖学」は1年次に履修</p>	<p>医療行動科学5・6 患者－医療者関係学／医療人間学</p> <p>3年次は、患者と医療者のあるべき関係について深く考え、付属病院における「患者付添実習」を通して自らが取るべき行動指針について学びます。</p>
<p>教養系領域 (教養・外国語・保健体育・準備教育)</p> <p>歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設けています。外国語科目は「英語」「ドイツ語」が必修となっています。準備教育科目の「数学」では、パソコンを利用した情報の処理方法や化学レポートの作成法を学修。「物理学」「化学」「生物学」においては、基礎歯科医学との関連性を重視した学修指導を行っています。</p>	<p>分子生物学領域</p>	<p>病態基礎医学領域</p> <p>病気の実態を解明するための「細菌学」「病理学」を学び、実際の歯科治療の知識・技術修得へ向けて基礎知識を身につけます。</p>
<p>歯科医学総合講義領域 1～3</p>		<p>臨床歯科医学領域・社会系歯科医学領域</p> <p>からだ全体についての医学的知識をもとに、歯科治療はどうあるべきかという理論と具体的な治療法について学びを深めていきます。さまざまな歯科疾患とその治療法を学び、多様な医療対応を修得します。さらに、科学論文の理解に必要な医療統計学の基礎を学びます。</p>
		<p>「生化学」「薬理学」などを介して、からだの器官や組織、細胞レベルの機能や生体と薬物との相互作用を学び、からだ全体についての医学的知識を培います。講義と実習を組み合わせることで、知識と実践の両方を伴った医学・歯科医学の基礎を身につけます。</p>
		<p>各学年で学ぶべき知識・技術が確実に修得されているかを再確認することを目的とした科目で、講義と試験で構成されています。試験結果は個人ごとにデータベース化され、重点課題を明確にした学修目標を定めることによって、確実なステップアップが図れます。</p>

特色ある科目

自主創造の基礎 1・2

日本大学の教育理念である自主創造は、知的好奇心を持ち、自らが課題に取り組み、新しい道を切りひらくことです。日本大学では、学生一人ひとりが「自主性」と「創造性」に根ざした「将来目標を設定する意識付け」「学ぶ目的の意識付け」ができるような「自主創造型パーソン」の育成を目指し、全学共通初年次教育科目として設置されています。そのために1年次では「自主性」性を涵養し、「創造」性への導入を目指した「自主創造の基礎(初年次教育科目)」を展開しています。松戸歯学部で求められる学修技法や将来の良き社会人に繋がる学修のあり方について学びます。



医療行動科学 1・2 (歯科医学概論/医学・歯科医学史)

「なぜ歯科医師になるのか」というテーマを自分自身に向けて問いかけることからスタートし、歯科医療の現場を早期に体験します。歯科医師の仕事の厳しさや役割の重さ、やりがいを実際に目の当たりにし、歯科医師になることへのモチベーションを高めます。講義では「プロフェッショナリズム(世界レベルで提案されている医療行動指針)」や僧侶による「スピリチュアルと医療」、演習では「ポートフォリオ(自分の考えや行動を自己認識し振り返る)」や「医療体験(付属病院の見学、診療所訪問研修、歯科検診の体験)」など多彩な科目を設けています。



医療行動科学 3・4 (医療倫理学/医療心理学)

医療人として身につけるべき医療倫理と患者の心や行動を理解するための医療心理学についてTBLで学びます。TBL (Team Based Learning) は「チーム基盤型学修」のことです。学生が自主的に学修して授業の準備をします。1つのテーマに対して、グループに分かれて文献検索、分析、まとめることで、授業を行います。主に学生同士の質疑応答で授業は進行します。

栄養学

健康と栄養の密接な関係について、歯科領域から、食育(さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を修得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること)に対するアプローチを探索し、学びを深めます。



Message

1・2年次の学びについて

大塚 洋平 さん



1年次では教養科目である数学や物理学、生物学、化学、英語、ドイツ語などを学びました。各科目の先生方が優しく丁寧に教えてくださったので、高校で文系のコースだった私もしっかりと知識を身につけることができました。
2年次では基礎医学である解剖学や組織学、生理学、生化学、細菌学などを学びました。一番印象に残った授業は、2年次の後期に行う「解剖実習」です。人体の骨、筋肉、血管、神経、各臓器について学べたことは大変貴重な体験であり、1・2年次で基礎医学を履修したことは、知識はもちろんのこと、歯科医師になる者としての心構えや人間の尊厳を学ぶことができたと考えています。このことは、歯科医学のプロフェッショナルになるために必ず生きてくると考えています。

Message

3年次の学びについて

鈴木 昇建 さん






「歯は何を使って削っているのだろうか?」「虫歯はどうやってきれいに治しているのだろうか?」と一度は疑問に思ったことがあると思います。3年次では、そんな疑問が解決します。2年次まで学んだ基礎歯科医学を応用して、「歯科医師らしい科目」である臨床歯科医学領域を勉強するからです。実際に歯を器具で削ったり、削ったところをきれいに治したり入れ歯を作ったりする授業や実習を行います。自分が製作した入れ歯やかぶせものが完成した時の達成感は最高でした。3年次ではとにかく手を動かす実習が多いのが特長です。授業や実習時間も増え毎日が新しいことばかりで、大変な時期もあります。しかし、今まで知らなかったことを理解できた時や自分で出来るようになった時にとてもやりがいを感じられました。3年次の1年間での学びによって「自分は歯科医師になるのだ」という自覚がさらに強くなりました。

学びの領域

特色ある科目

4年次	共用試験 (CBT OSCE)	5年次	OSCAT (臨床能力到達試験)	6年次	歯科医師国家試験
<p>医療行動科学7・8 医療面接・歯科臨床診断学／医療コミュニケーション学</p> <p>4年次は、医療面接を通して、医療情報を収集し、最適な医療を行うために必要な診断までのプロセスや患者と良好な信頼関係を築くための医療コミュニケーションについて学びます。</p>		<p>臨床実習領域</p> <p>臨床実習は、電子カルテシステムなど、さまざまな最新設備が整備された隣接の付属病院で実施されます。指導医の指導を受けながら、1年間をかけて医療現場の実務を修得します。患者さんと実際に接することによって、技術だけでなくとどまらず、歯科医師としての態度も学び、職業意識を培う機会にもなります。</p>		<p>医療行動科学9</p> <p>6年次は、生涯学習が必要な歯科医師が、歯科医学を学ぶ科学者として備えておくべき研究マインドの育成を図ります。</p>	
<p>総合医学領域</p> <p>5年次に行われる臨床実習前に、内科学・外科学などを主体にした医学分野を横断的かつ複合的に学び、歯科学を医学の一分科として捉える「口腔科学(Oral Science)」を展開し、実践するための知識・技術を、統合型講義によって身につけます。</p> 		<p>臨床実習領域</p> <p>臨床実習は、電子カルテシステムなど、さまざまな最新設備が整備された隣接の付属病院で実施されます。指導医の指導を受けながら、1年間をかけて医療現場の実務を修得します。患者さんと実際に接することによって、技術だけでなくとどまらず、歯科医師としての態度も学び、職業意識を培う機会にもなります。</p>			
<p>臨床歯科医学領域・社会系歯科医学領域</p> <p>からだ全体についての医学的知識をもとに、歯科治療はどうあるべきかという理論と具体的な治療法について学びを深めていきます。さまざまな歯科疾患とその治療法を学び、多様な医療対応を修得します。さらに、科学論文の理解に必要な医療統計学の基礎を学びます。</p>		<p>臨床実習領域</p> <p>臨床実習は、電子カルテシステムなど、さまざまな最新設備が整備された隣接の付属病院で実施されます。指導医の指導を受けながら、1年間をかけて医療現場の実務を修得します。患者さんと実際に接することによって、技術だけでなくとどまらず、歯科医師としての態度も学び、職業意識を培う機会にもなります。</p>		<p>医療行動科学9</p> <p>6年次は、生涯学習が必要な歯科医師が、歯科医学を学ぶ科学者として備えておくべき研究マインドの育成を図ります。</p>	
<p>歯科医学総合講義4</p> <p>1～4年次までに学修した自然科学分野、基礎歯科医学分野及び臨床歯科医学分野の知識を整理・深化、統合し、その学修成果の評価の一つである共用試験合格を目指します。</p>		<p>歯科医学総合講義5・6</p> <p>松戸歯学部の講義や臨床実習を通して学んだ知識を6年間の総まとめとして科目横断的な統合的かつ専門的な講義を通して知識の修得を確実なものとし、歯科医師国家試験合格を目指します。</p>		<p>医療行動科学9</p> <p>6年次は、生涯学習が必要な歯科医師が、歯科医学を学ぶ科学者として備えておくべき研究マインドの育成を図ります。</p>	

<p>障害者歯科学</p> <p>「障害者歯科学」の専門講座を開設している本学部では、障がいを持った患者さんに対する歯科医療にも力を入れています。摂食・嚥下(えんげ)機能障害を有する患者さんの全身疾患への理解を深めるとともに、社会科学的背景を理解し課題解決のための知識・技術を修得します。</p>	<p>学修スペースについて</p> <p>松戸歯学部では学修支援の一環として学修スペースの充実を図っています。学修スペースとして図書館の他に学生セミナー室も完備され、さらに学生同士が知識を深め合いながらグループ学修ができるよう午後5時以降は学生食堂を学修スペースとして開放しています。学内では、多くの学生がこれらの学修スペースを利用し、毎日の講義・実習の復習や試験に向けて大学に残って勉強しています。</p> 	<p>診療参加型臨床実習 (SD 診療)</p> <p>付属病院を受診する患者さんの治療に参加し、歯科医療の実践力を培います。指導医によるマンツーマン形式で行われますが、患者さんの初診時医療面接と応急処置に始まり、診査・検査・情報収集と分析、総合的治療計画の立案、患者さんへの説明までを学生が行います。さらに、指導医の指示を仰ぎながら実際に患者さんの治療を担当し、実体験を通して患者さんとの良好な関係構築のためのコミュニケーション能力と診察技能を高めます。</p>	<p>課題別臨床実習</p> <p>各診療科が設置したコースから興味を持ったコースを選択できるシステムで、より専門的な知識・技術の修得が可能です。</p>
<p>共用試験 (CBT・OSCE)</p> <p>「共用試験」は、実際に患者さんと接する際に必要な知識・態度・技能を身につけているかを判断する試験で、臨床実習前の学修のまとめとして実施されます。コンピュータを用いて知識・問題解決能力を評価するCBTと、態度・診察技能を評価する客観的臨床能力試験OSCEがあり、この試験に合格すると5年次に進級し、臨床実習に進むことができます。</p>	<p>学修スペースについて</p> <p>松戸歯学部では学修支援の一環として学修スペースの充実を図っています。学修スペースとして図書館の他に学生セミナー室も完備され、さらに学生同士が知識を深め合いながらグループ学修ができるよう午後5時以降は学生食堂を学修スペースとして開放しています。学内では、多くの学生がこれらの学修スペースを利用し、毎日の講義・実習の復習や試験に向けて大学に残って勉強しています。</p> 	<p>OSCAT (臨床能力到達試験)</p> <p>5年次の臨床実習の総括として、複数の診療科で課題を受験し評価を受けます。これによって各々の臨床能力到達度を確認することができます。</p>	<p>歯科医学総合講義6</p> <p>診断・治療・予防までの一貫した診療を実践できる歯科医師になれるよう実習と講義を行い、歯科医師国家試験の合格に向けて6年次までに履修した知識・技術を集約します。</p> 

Message 4年次の学びについて



山田 彩加 さん

4年次になると3年次までの勉強に加えて、臨床科目の授業が増えて、より一層専門的な分野の講義や実習を行います。私が特に興味深く感じた講義の一つに「総合医学」があります。この講義を通して医学領域について広く学ぶことができ、松戸歯学部の教育ビジョンである「口腔科学(Oral Science)」を実感することができました。また、歯科医学総合講義4では、4年次終了時に行われる共用試験(CBTとOSCE)に向けて、今までの知識を総復習する講義を受けることで、無事に合格することができました。大学では、グループ学修や自分に合った勉強法を見つけて、コツコツと学ぶことが大切です。私は4年間、クラブにも力を入れました。歯科医師という職業は、とてもハードで体力が必要だと先輩達から聞いていたからです。勉強とクラブを両立できる環境が整っていることも松戸歯学部の良いところです。

Message 5・6年次の学びについて



松村 礼子 さん

5・6年次における臨床実習の最大の長所は、来院患者さんが多く、見学だけの臨床実習ではなく実際の治療に参加させてもらえる診療参加型であるということです。付属病院での臨床実習では一人ひとりに、患者さんを担当し、治療計画から単純な治療まで私たちが行います。5年次のうちから責任をもって患者さんと接することになるため、歯科医師となるためのプロフェッショナルなリズムが高まります。歯科医師国家試験に向けての歯科医学総合講義6では、先生方の親身で情熱溢れる講義が特長です。理解できなかったことに対しては、いつでもウェルカムで、学生が質問し、話し易く、またインターネット(WebClass)を通じて先生に質問することもできます。先生方から積極的な情報発信がなされるなど、時間を有効に使いながら疑問を解決し、知識を深めることができました。

松戸歯学部での6年間はよく遊び、よく学んで過ごしたと思います。松戸歯学部のカリキュラムを信じて勉強すれば、必ず歯科医師国家試験に合格できると思います。皆さんの貴重な大学生活を松戸歯学部で過ごしてみてください。